



追悼 故 宮川嘉治 名誉教授

平成三年九月七日、消化管出血により、宮川嘉治先生が急逝された。かねてより、細心の注意を払って病に対処しておられたかきもなく、誠に痛恨の極みである。

宮川先生は、一橋大学商学部をご卒業後、昭和三十一年に広島大学工学部に着任されてから、実に三十五年の長きにわたって、工学部、政経学部、経済学部と、広島大学一筋、そして会計学一筋に研究・教育に携わってこられた。その誠実かつ真剣な姿勢は、先生を知る人なら何人も否定しないであろう。また、夜間学部主事をはじめとして、大学の管理運営面においても多大の貢献をなされている。ご専門の会計学の領域においては、会計主体論を中心とする財務会計分野ばかりでなく、原価計算から管理会計、さらには情報会計論にまで及ぶ、非常に広範な領域において、常に最も本格的なテーマに取り組んでこられた。とくに、財務会計と管理会計という会計学の二大分野を一方に偏らない立場から研究されたことは、日本の他の会計学者にはほとんどみられない先生の大きな特徴といえる。

この春に無事ご退官になり、新たな職場での研究・教育にも張り切って取り組まれていただけに一層残念である。今は、心よりご冥福をお祈り申し上げますのみである。

(経済学部経営・情報講座 阪口 要)



追悼 故 佐久間澄 名誉教授

広島大学名誉教授佐久間澄先生は、去る九月二十八日逝去されました。八十一歳でした。

先生は昭和十年広島文理科大学物理学科をご卒業の後、助手、助教授等を経て昭和二十四年広島文理科大学教授、同二十八年広島大学教授となられて、四十九年停年ご退官まで理学部物理学科素粒子論講座において研究と教育に当たられました。

研究者として先生は、一般相対論と量子論を幾何学的な枠の中で統一する事を試みた、故三村先生の波動幾何学の建設に協力し優れた業績を上げられました。この壮大な課題は現在の理論物理学の中心の問題です。

自由で民主的な研究室をつくられることに心を配られ、研究室からユニタリ対称性等の業績を生み出しました。

反核は先生の生涯の課題であり、先生の社会的実践活動からは、単に科学者としての社会的責任を果たすという以上の、もっと根元的な人間的なものをいつも感じていました。

もはや、あのトットツとした話し方にふれることもできません。温厚で清廉なお人柄を偲び、先生のお好きだったお酒を残された者たちで酌み交わすことしかできません。

先生のご冥福をお祈りいたします。

(理学部固体物理学講座 米澤 穰)